

第7回 小千谷市立小中学校の在り方検討委員会 会議録

日 時：令和7年8月26日（火） 午後2：00～4：00

場 所：健康・こどもプラザあすえ～る 会議室

出席者：17人

遠藤英和委員	船岡芳英委員	関昌子委員	鈴木進五委員	山崎勝之委員
菊地亜弥子委員	森田雅弘委員	大西洋子委員	渡邊類委員	大場亜梨沙委員
森本恵理子委員	渡邊久美子委員	佐藤正機委員	木原宏幸委員	関麻紀委員
佐藤正敏委員	大塚貴裕委員			

事務局：5人

小林管理指導主事 久保管理指導主事 小田原学校教育係長 岩渕教育総務係長 和田主任

会議概要：

1. 開会

17人の委員からの出席をもって、「小千谷市立小中学校の在り方検討委員会設置要綱」第6条に基づき、会議の成立を報告。

2. 委員長挨拶

3. 議事

1. 第6回検討委員会の振り返り
2. これまでの検討委員会で出た意見の整理
答申について
3. 今後のスケジュールについて

4. その他

5. 閉会

発 言 者	内 容
遠藤委員長	・ 答申資料（案）をもとに、適正規模や通学距離及び通学時間について、意見があれば発言をお願いします。
森本委員	・ これまでの検討委員会では、小学校の適正規模として「クラス替えが可能となる規模」が意見として出ていたが、「複式学級を解消できる規模」として、このまま議論を進めてよいのか。
船岡委員	・ 小学校でも全学年でクラス替えが可能となる規模が理想だが、小千谷市の現状を見ると「複式学級を解消できる規模」が現実的である。
関昌子委員	・ 「クラス替えが可能となる規模」は多様な価値観に触れられてよいと思うが、単に児童数が多くなることを望んでいるわけではない。
鈴木委員	・ 小学校の適正規模を「クラス替えが可能となる規模」にしてしまうと、学校数が少なくなり、地域の実情を考えると難しい。「複式学級を解消できる規模」とし、ある程度の学校数を存続させることが現実的である。
佐藤正敏委員	・ 中学校については、市内の中学生が令和 19 年度に現在の小千谷中学校と同程度の人数となることを考慮し、教育の質の保証について検討していくべき。小学校については、地域でできるだけ踏ん張って存続させることが望ましい。
木原委員	・ 小学校にクラス替えが本当に必要なのかは疑問である。小千谷市の教育環境の在り方を考えると、小規模校で学べる利点を活かした教育をしていくべきである。 ・ 1 学級 35 人以下といった国の基準が、現状とそぐわない自治体も増えている。国に働きかけ、基準を変えることで、学校教育を見直すことができるのではないか。
佐藤正機委員	・ 小規模だからといって劣っているわけではなく、大規模校だからといってよいということはない。小千谷市は個性的な教育を行っているので、そこは変える必要はない。
森田委員	・ 小学校の複式学級を解消したとして、その環境を 10 年保てるか疑問である。今後の出生数も推計し、それを踏まえた上で「複式学級の解消」というキーワードだけではなく、小千谷市としてどのような教育を展開していくかを示す必要がある。
木原委員	・ 小学校はできる限り現状のまま存続させたい。地域で子どもを育てるということを様々な活動を通し、継続して行う必要がある。そのためには、できるだけ近くに小学校があった方がよい。
遠藤委員長	・ スクールバスの運転手の確保、放課後子ども教室、子どもの居場所については付帯意見として答申に盛り込んでいくべき。
大西委員	・ 保護者同士でコミュニケーションを取る機会があれば学校でのトラブルも減ると考える。コミュニケーションの重要性を答申に盛り込むべき。

遠藤委員長	・ 次回は、答申資料（案）をもとに、望ましい教育環境の在り方を検討し、答申の最終確認をする。 （第8回小千谷市立小中学校の在り方検討委員会について） ・ 第8回検討委員会は、9月24日（水）15：00より、あすえ～るにて開催することを確認。
-------	---

上記委員会の次第を記載し、その相違ないことを証明するため、ここに署名する。

令和7年9月24日

小千谷市立小中学校の在り方検討委員会

委員長